

石巻 子どもたちからの町づくり提言 プロジェクト

【プロジェクトの概要】

2011年3月11日の震災以来、生活は一変、避難生活が始まった。避難所を出た後の子どもと保護者には、放課後および長期休み期間の安全な居場所が必要だった。そこで、避難所解散後の2011年10月「いしのまき寺子屋」が東日本大震災圏域NPOセンター内に開所した。仮設・みなし仮設生活は今も続く。被災地で未来のまちづくりに取り組むことは、震災での痛手に向き合う事にもなる。「いしのまき寺子屋」の学習・活動の中で、子どもたち（高校生・中学生・小学生）は2012年2月にはスカイプ中継で世界水会議に参加。2012年8月にはサバイバルキャンプと、様々な表現を続け、同年9月にこの「南浜・門脇未来まちづくり子どもプロジェクト」に取り掛かった。このプロジェクトの中で、子どもたちと一緒に自分たちの住む街の未来復興ビジョンを描き、行政に提案するための提言書とジオラマを制作。子どもたちが向き合える状況を把握しながら寄り添い、状況に応じて出られる時に参加するよう、子どもの意志を最大限尊重し進められた。

子どもたちはこのプロジェクトの活動計画を立てる時、「この街が、この後どうなっていくのか予想がつかない。大人が考える未来の街ではなく、子どもが将来暮らしていく『自分たちの街』を考える」と取りかかった。さらに、子どもたちは未来のまちをジオラマとして仕上げ、震災を忘れず、風化させず、後世に継承するひとつと考えた。2013年10月18日、市役所で、子どもたちは石巻市長にジオラマを手渡した。

【主催】 いしのまき寺子屋(東日本大震災圏域創生NPOセンター)、認定NPO法人JKSK

【まちづくりの目的】

- ・震災を忘れず、風化させない
- ・建物は避難所になることを想定
- ・豊富な避難路
- ・防災・減災は防潮林で対策
- ・楽しめるまち

【コンセプト 基本構想】

- ・みんなが街のことを考えるまち
- ・ユニバーサルデザインがあるまち
- ・災害の対策に尽力しているまち
- ・漁業を盛んにしたより快適なまち

【イメージ】

- ・祭りで町おこしているまち
- ・みんなが明るいまち・おもしろいまち・素敵なまち
- ・活気にあふれるまち・歴史を知るまち
- ・いっぱい遊べるまち・就職先が充実しているまち

【具体策】

- ・公園や広場が多い
- ・高台がある
- ・堤防をつくる
- ・地盤の強化・避難経路が確立されている

